令和５年度第３回田川市経営評価改革推進委員会　会議録

開催日時		令和５年１２月１９日（火）１０時３０分から１２時まで
開催場所		田川市役所４階　庁議室
出席者	委　員	美谷薫（委員長代理）、和田徹、横道秀美、佐藤元治、米丸知之、花石恵子 （出席者６名）　※欠席：神谷英二（委員長）
	田川市 （事務局）	（経営企画課）有田課長、峯課長補佐、山本行政改革推進係長 藤井行政改革推進係主任、眞杉行政改革推進係主任

１　開会

２　副委員長挨拶

３　議事（議事進行：美谷副委員長）

⑴　田川市第７次行政改革大綱第１期実施計画の進捗状況について

事務局	（事務局が資料１、資料２を説明）
委員長代理	計画変更を行った場合でも、第１期実施計画の計画期間中（令和５年度から令和６年度まで）に取組みは完了する見込みなのか。
事務局	完了する計画になっている。
委　員	進行管理表の見直しの方向性は、誰が記載するのか。
事務局	取組状況【Ｄ】と評価【Ｃ】の結果の組合せにより、予め設定していた文言が自動表示されるようにしている。 なお、この見直しの方向性を踏まえて、所管課が課題及び解決策【Ａ】を記載する様式にしている。
委　員	全体的に取組の遅れや未着手のあった理由として、令和５年８月の人事異動が影響しているのか。
事務局	大きな影響はなかったと考えている。
委　員	情報収集や調査研究が目標達成の手段になっているにも関わらず、未着手となっている実行計画がいくつかあったため、最低限、着手はして、未着手の状態を解消するべきだと思う。
委　員	上司が実行計画の進捗を確認し、遅れや未着手のあった計画については、取組を進めるための指示をすべきだと思う。

事務局	本委員会終了後、市役所内部の行政改革推進本部会議に諮るため、その中で部長が進捗を確認し、担当課に取組推進の指示等を行うことになる。
委　員	№3「庁内文書の完全ペーパーレス化の推進」について、何の文書を対象にしているのか。
事務局	契約書等を除いたペーパーレス可能な全ての文書を対象にしている。 なお、関連した取組として、令和６年度に執務室に配置されている各課のプリンタ撤去を検討しており、これにより、必要でない紙の印刷枚数を更に減らしたいと考えている。
委　員	№15「財政指標の改善」について、令和５年１０月以降に取り組む予定になっている、目標値を達成するための方策実行では、市民に分かる方法で財政状況の公表等を行ってほしい。
委　員	№16「事務事業の民間委託化の総点検の実施」について、取組の進捗状況の詳細を教えてほしい。
事務局	実行計画では、定型的業務や庶務業務を含めた事務事業全般に亘り改めて総点検を実施するとしていたが、実態としては、トップランナー方式に掲げられた限定的な業務の総点検を行っていたため、課内協議の中で、実行計画に沿った取組を行うよう、具体的な手段を検討しているところである。
委員長代理	なぜ、最初に総点検を行わなかったのか。
事務局	総点検を行う場合、業務量が膨大となり、業務スケジュールで割り振った工数では取組が完了しないと判断したため、限られた工数の中で取組を進める方法として、一部の事務事業を抽出して点検を行うこととした。 この方法により、まずは少しでも民間委託化検討の実績を作り、この実績を活用して、当初抽出しなかった事務事業についても検討を行うことで、取組が円滑に進むと考えた。
委　員	事務局としては、対象課に委託化検討の照会を行っても、該当する業務がほとんど示されない傾向にあると見込み、今回の流れで取組を行ったのだと思う。一方で、民間委託すれば業務が楽になるが、日常業務に追われてそのような考えに至らないという、所管課の状況も理解できる。 これらを踏まえると、事務局が考えた手順は一定程度理解できる。
委　員	№20「公共施設の適正規模化」について、一部の取組で未着手となった理由は、職員が不足していたためなのか。また、取組の完了時期は示されているのか。

事務局	遅れや未着手の理由は、他に優先すべき業務があったためである。取組期間を見直し、完了期限を延長したため、所管課としては、その時期までに取組を完了させる予定である。
委　員	事務局は所管課に対して、何がどのように出来ていないのか、それに対してどう対応するのかを明確にさせるべきだと思う。
委員長代理	計画どおり取組に着手できるよう、担当者ごとに業務を割り振り、繁忙期等を調整して工数を設定していると思っていたが、各部署でそれが機能していないのか。
事務局	工数を記載した業務スケジュールは、各部署で作成している。
委　員	各職場をまわってみると、その業務スケジュールが機能している部署と、そうでない部署があると感じる。
委　員	№20「公共施設の適正規模化」よりも優先して行った№28「用途廃止施設の活用策の検討」について、田川市役所としては、これまでにないスピードで取組が進み、廃校となった中学校の活用という成果も出てきていると思う。
委　員	役所は「いつまでに」「何を」「どうする」を曖昧にする傾向があるため、事務局としては、それを明確にし、所管課での取組が推進する対応をしてほしい。
委員長代理	役所には議会があるため、全ての案件について決定する権限がある訳ではない。事業や取組等について、案をつくることはできても決定することはできないことから、曖昧な表現になるのは理解できる。
委　員	変更を行った計画等の一部の実行計画については、遅れや未着手の理由が分からない資料であった。また、見直しの方向性の内容は、誰が見ても思いつく内容のため、的確ではないと感じた。 限られた人材及び時間を効率的、効果的に活用して、実施計画に取り組むための進行管理表だと思っていたが、本来の業務に支障が出るため、未着手になったというのでは、この進行管理表を生かせていないと感じた。
事務局	事務局としても、指摘のあった事項が課題であると考えている。 今後は特に、遅れや未着手が生じている実行計画は、その理由や取組時期の詳細等を確認できるよう資料等を工夫して作成し、本委員会に報告したい。
委員長代理	本議題の意見を整理する。 進行管理表を確認しても、どのような理由で取組が遅れたり、未着手になったりしたのか分からない実行計画があった。また、実行計画の取組が進まなかった理由の１つに、業

	務の優先順位の付け方があげられることには、疑問がある。 　分かりやすい資料作成に労力をかけることを否定する訳ではないが、取組の改善に繋がるような資料を作成してほしい。

⑵　その他

事務局	（次回会議の日程の連絡）

４　閉会